

一般質問を通じた議員力の向上について (その2)

2020/07/27

議会改革推進会議 正副委員長

正副委員長において、改めて冊子『たかが一般質問、されど一般質問』を読み返すとともに、先回の委員会において委員から意見があった「今件の取り組みの目的は、“議員力”の向上なのか、“議会力”の向上なのか」ということも念頭におきながら、議会改革推進会議としてどのように取り組みを進めていくかを協議した。

6月24日の議会改革推進会議へ提出した資料に示したとおり、今件の正副議長からの依頼について課題整理すると、①『たかが一般質問、されど一般質問』が活かされているか、②「(一般質問が)このままでよいのか」という動機付けから、一般質問を活かしていくところへどうつなげられるか、の大きく2点になると考える。

2つの課題に対して、それぞれにアプローチする考えや取り組み案を整理した。

1 課題①「『たかが一般質問、されど一般質問』が活かされているか」について

冊子『たかが一般質問、されど一般質問』は、Part.1の「たかが」一般質問「されど」一般質問からPart.9の質問力を議会力に・後編までの9章と付録で構成されている。特に、18ページからのPart8の質問力を議会力に・前編のまえまでが、一般質問の概論、あるいは個々の議員に関する一般質問としてまとめられている。議員個々に見返していただくことにより、課題の一端を担うと考える。また、付録の自己評価シートを実際にやっていただくことも有効と考える。

つまり、冊子『たかが一般質問、されど一般質問』を活用して、各議員が自助努力、自己研鑽することにより議員力アップをはかっていただきたいと考える。そのため、議会改革推進会議としては、それを促すべく、何かしら啓発啓蒙的なことに取り組みればと考える。

それを進めていくうえで、冊子『たかが一般質問、されど一般質問』の活用を考えてみた。

(1) 読み返すが先か、自己評価シートが先か

自己評価シートのチェック項目は、本編の各章の要点である「さりとして〇〇市議会の現状は」の列記となっている。このため、(本編を精読しない状況で)先ず自己評価シートをやって、不明部分があれば、本編へ戻って確認することができる。つまり、読み返し、自己評価のどちらから始めてもよく、効率性からすると自己評価シートから始めてみるとよいと考える。

ただし、自己評価シートに対しては、以下のような課題があると感じる。

(2) 自己評価シートに関する課題<委員長より>

自己評価シートにより自身の一般質問を振り返ってみたところ、何点か疑問が生じてきた。この点について、委員会で意見交換したい。

ア 評価のつけ方について

○×はなじまない。つまり、「できているか、できていないか」といったどちらかを判定するのではなく、点数というか、達成度合いや、改善すべき具体的な部分を記録していく。

イ “自己”評価の限界

自己評価シートのチェック項目欄の「さりとて〇〇市議会の現状は」にもあるとおり、“議会として”扱うことや、答弁する執行機関に対することがある。そして、自分の評価が十分でも、他者から見れば違う場合もある。

以上のア・イを起点に、冊子『たかが一般質問、されど一般質問』の活用について意見交換を求めらる。

⇒Part8の質問力を議会力に・前編、Part.9の質問力を議会力に・後編に関しては、次の課題②において扱う。 *「質問力＝議員力、議員力は議会力にも通じる」(冊子p8、Part3-1)

2 課題②4「(一般質問が)このままでよいのか」という動機付けから、一般質問を活かしていくところへどうつながられるか。

議会力の向上、いわば議会の機能である行政の監視や政策の提言を向上させるために、一般質問を活用するうえでは、何が課題であるか、どのような手段があるかを正副委員長で協議した。

一議員が執行機関側に対して、政策提案をしっかりととしても、どれだけそれが施策等へ反映されたか、限界があると考え。冊子『たかが一般質問、されど一般質問』のPart8の質問力を議会力に・前編、19 ページのとおりである。つまり、一般質問における政策提言を、より効果的なものとするためには、議員間連携による執行機関側へのプレッシャーが必要となるだろう。

そして、議員間連携のためには、一般質問において議員が提案した課題などを共有していく、さらに、そのためには議員間の議論も必要となるかもしれない。課題の共有化、議員間連携のために、果たしてどのようなことができるか。一方で、一般質問は個のものであり、一般質問の背景や議員個々の思いや考えは尊重しなければいけないと考える。

冊子『たかが一般質問、されど一般質問』のPart8の質問力を議会力に・後編、21 ページの項目3の①にもあるとおり、「一般質問を、政策資源に高めていくシクミ」ができていくとよい。しかし、そのシクミがあって、そこへ向けてどのような取り組むかということではない。

当面考えられるところでは、「議員間連携による執行機関側へのプレッシャー」という点で、一般質問における“関連質問”というのはどうか、と考えた。思い付きの領域のため、前提となる議員間連携をどうやってしていくか、といったところを飛び越えてしまっているが、(議会改革推進会議としてということではなく)どこかで意見交換できればと考える。